



## 「自分のめあてに向かって、自分から意欲的に取り組む子の育成」

- ・自分にあった目標を自分で見いだす
    - ・課題の解決方法を自分で考える
    - ・課題解決にむかって自分から意欲的に取り組む
- ～次々と一段と高い目標に向かって、みんなで挑戦し続ける学習集団を基盤に～

日増しに暖くなり、早春の息吹を感じるこの頃です。新しい学年に向けての準備等、何かと忙しい毎日を過ごされていることと思います。皆様には、日頃より本校教育にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

さて、本校では、例年7月と2月に保護者・地域の方々から学校評価を頂き、その結果を真摯に受け止め、教育実践の改善・推進に努めております。今年度も、子ども達・保護者・教職員のそれぞれの立場で振り返るための項目を設定し、アンケートを実施しました。お忙しい中、今年度2回目のアンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。アンケートの結果及び考察について公表し、学校・保護者・地域が一体となって現状を確認し、それぞれの立場で課題を明らかにして、今後の教育活動の実践に生かしていくことが大切であると考えております。今年度の傾向として、4月からの2ヶ月間の休校期間があり6月からのスタートとなった1学期、7月に行ったアンケートは、久しぶりに登校できた喜び、友達と会えた嬉しさ等、ようやく学校生活をスタートすることができた事を肯定的にとらえ、例年にない高水準のアンケート結果でした。学校にも慣れ、通常通りとはいかないまでも順調に学校生活を送ることができました。今年度の7月と2月のみの比較だけでなく、昨年度の結果と合わせて見ていただけたらと思います。

## ＜学校評価アンケートの集計結果について＞

「学校生活は、楽しいか」「友だちとなかよくしているか」の項目では、A（そう思う）、B（大体そう思う）を合わせ90%以上の子ども達や保護者の方からよい評価を得ていることは大変嬉しい結果です。しかし、「みんなから大切にしてもらっているか」の項目は、7月と同じように低学年で90%に届かない結果となりました。結果を真摯に受け止め、今後も「一人一人を大切にした指導」を教職員一同心がけ、また、子どもたち自身も、一人一人が「みんなから大切にしてもらっている」「友だちを大切にできる」と感じられる学級、学年、学校を目指し、学校に来ることが楽しいと思えるようにしていきたいと考えています。

「先生に相談できますか」の項目では、A（そう思う）B（大体そう思う）を合わせて80%の子ども達が肯定的にとらえてくれています。昨年度と比較すると、およそ10%程度向上しています。大変嬉しい結果です。「子ども同士が認め合えるような関係づくりに取り組んでいる」（教職員）や、「子どもとふれあい、対話するよう心がけている」（保護者）のA（そう思う）、B（大体そう思う）と回答した割合は95%超える結果でした。成長過程の中で、子ども達自らが大人に素直に話をしたり、相談したりすることが難しくなっていくのは仕方のないことなのかもしれません。高学年になると思春期にさしかかり、これまでと同様に大人に素直に話をしたり、相談したりすることが少なくなってしまうかもしれません。だからこそ、学校では教職員が一番身近な大人であり、一番気軽に相談できる理解者であることが大切です。これまで以上に子ども達との関係づくりに力を入れ、これからも、学校、家庭が共に取り組んでいきたいと思ひます。

「勉強は、わかりやすいですか」の項目では、90%の児童がA（そう思う）、B（大体そう思う）と答えてくれています。2ヶ月間の休校があり、過密日程の中での学校生活でしたが、7時間目授業の導入や大塚タイムの補習時間の確保など、一定の成果が出たように思ひます。今後も、継続して子ども達にとってわかりやすい授業、自ら学ぶ授業へ向けて、精一杯取り組んでいきたいと思ひます。

「毎日必ず宿題をするか」の項目は90%近くの子ができていますと答えています。この数年間の取り組みの成果であり、継続してご家庭でもしっかりと声かけなどをしてくださった結果で、家庭学習の定着が進み、習慣化してきているのだと思ひます。一方で、「家庭での読書」を「している」と答えている子の割合は依然として高くなく、毎年の課題としてあがっています。先日行われました学校運営協議会でも、読書についてのご意見をいただきました。読書への取組や声かけの仕方などは、課題が多くあります。本を手にとって見る機会が大人も減っている中、子ども達に継続して声かけていくことが難しくなっていると感じます。この春の進級の機をとらえ、さらに家庭での読書に力を入れていただきたいと思います。また、学校でも新たに工夫し読書に親しめる環境づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

「元気に挨拶をしているか」の項目では、90%近くの割合で「できている」と答えてくれています。あいさつをするようにはたらくかけている保護者は90%以上あり、保護者の方は変わらず声をかけていただいていることが分かります。また、来校者の方や地域の方々から「しっかりとあいさつができていますね」とお褒めの言葉を頂き、大変うれしく思っています。しかし、一定の割合で「できていない」児童がいることも確かです。あいさつは人と人との交わりのスタートです。どの子も元気にあいさつができる大塚の子であってほしいと感じています。今後も、学校、家庭、地域が共に子ども達への声かけを継続して行っていきたいと思ひます。ご協力をお願いします。

学校で育てるもの、家庭や地域のなかで育てるもの、それぞれがその役割をしっかりと自覚し、連携し合って子どもたちの健やかな成長を支えることが重要であると考えています。これからも学校は保護者の皆様・地域の皆様と共に協働して教育活動を推進していきたいと考えています。どうぞご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。